

放射線科

文責：金子 隆文

概要

箕田俊文、狩野裕一、金子隆文の常勤3名と、非常勤：小池晋司（週二回半日、診断）、眞鍋裕気（週一回半日、治療）の5人体制で診療を行っている。

業務内容

検査（MDL・DDL・血管造影・IVR（一部））、読影（CT・MRI・RI・PET）、dataの整理、健診（健康管理科フィルム読影の一部お手伝い）、及び、放射線治療を行ってきた。

診断検査部門では、CT 2台による心血管、消化管、骨軟部組織、等々の各種臓器の3D表示。MRI 2台によるMRA・MRCP 脳血流、心機能解析。PET 検査による癌診断など、新しい分野での画像診断も定着し、さらなる検査精度の向上や時間短縮が得られている。

また、RI 検査部門では、ガンマカメラ装置も順次更新された。さらに、血管造影装置2台に加え、R2.6月からはハイブリッドオペ室での先進的な画像診断スキームを用いた先進的な医療が稼働している。病院オーダリングシステム（HIS および RIS）では、放射線検査データのデジタル保管及び、PC 端末を利用したレポートシステムが順調に稼働。フィルムレス運用も、従来のフィルムの代わりに、各診療科外来・病棟のPC 端末で画像デジタルデータおよびレポートが、参照・運用されている。尚、2019 年度末より 富士通社製の電子カルテへの移行がなされた。

医療機器共同利用システムとして、病診連携室の協力を得て、放射線画像検査（PET, CT, MRI, RI, PET）の近隣の診療施設からの直接依頼受入体制（検査直接申し込みによる外来検査予約とし、紹介状と検査依頼書の作成添付をお願いし、検査当日の報告時には、検査フィルム+検査報告書を原則添付）も順調に稼働している。こちらも従来のフィルムその他、フィルムレス化しデジタルデータ管理（CDに画像 viewer soft 付き DICOM data として記録したもの）の添付とともに、院外へのネット配信も可能としている。

画像検査部門：令和3年度の年間検査件数－レポート件数－は、CTが16555件、MRIは5252件、RIは314件、PETは393件、消化管透視は28件（胃・大腸）であった。消化管透視以外で検査件

数が前年度と比較して増加している。次に、IVRは、血管造影が78件で、これに加え気管ステントやCT下穿刺などの非血管領域が76件施行されており、こちらは前年度に比べ大幅に増加している。

治療部門：CTをベースとした治療計画システムと、患者固定装具の導入、治療室同室CT装置導入で、定位集光放射線治療も可能な設備として運用されている。尚、令和3年1月より、新規装置（バリアンメディカルシステムズ社製liniac TrueBeam）が稼働している。

また、平成23.11月より、泌尿器科と共に開始された、前立腺癌に対する密封小線源治療は、県下唯一の実施病院として広く認知されている。外照射治療及び治療計画は、月～金の午後外来。令和3年度の新患登録は78例、外照射治療計画件数は111件（追加計画21例含）であった。

前立腺密封小線源治療は隔週木曜の午後で、治療患者数66例（外照射併用7例含）であった。他、放射線同位元素内用療法として、Ra治療は実施されなかった。